矢作川流域圏懇談会通信

H26 海部会編 vol. 3

発　行　日：平成 26 年 7月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第１９回海部会WGを開催しました！

７月２２日に第１９回海部会 WG を開催しました。今後の活動計画やゴミ・流木調査の結果と今後の進め方、次回の WG について話し合いました。また、WG メンバーである国土交通省三河港湾事務所の田村課長と名城大学の鈴木特任教授より三河湾干潟造成について講義をしていただき、意見交換を行いました。

日　　時 ： H26 年7月２２日(火)　13:３０～15:３０
活動場所 ： 西尾市役所 会議棟 ２階　２２B 会議室
参 加 者 ： ２１名（事務局含む）

◆主な会議内容

1：話し合いで決まったこと

■今後の海部会 WG の活動計画

●今後の海部会WGの日程と活動内容を以下のように決定した。

第 20 回	8月１１日（月）	子供干潟体験（トンボロ干潟）
第２１回	9月　5日（金）	鳥類からみる海の調査
第２２回	１０月１１日（土）	ゴミ・流木調査（佐久島）
第 23 回	１１月	干潟造成に向けた検討
第 24 回	１２月	海底ゴミや生き物調査結果の報告会

■ゴミ･流木調査の結果と今後の進め方

●第18回海部会WG(H26.6)で実施した西の浜でのごみ･流木調査の結果を確認した。
●矢作川下流域で出水後３日以内にごみ・流木調査を実施する。

■次回WG（子どもの干潟体験イベント）

●子供たちに感想と海との日頃の関わりをアンケート調査する。
●イベントは午前中できりあげ、西尾市役所・幡豆支所に移動して振返りを行う。

2：講義

■三河港湾事務所講義：干潟・浅場造成に関する検討状況について

●平成21年度より伊勢湾再生海域検討会三河湾部会で伊勢湾再生海域推進プログラムを検討した。
●干潟・浅場造成と深堀後修復は優先施策として計画に位置付けた。
●干潟・浅場造成については、平成22年度に数値シミュレーションを行い、平成25年度に候補地を５箇所選定した。今年度は、干潟・浅場をどうつくっていくか、手法などを検討していく。

■鈴木特任教授講義　：三河湾環境再生プロジェクト行動計画について

●単一の自治体が管理する内湾は長崎の大村湾と三河湾だけだが、三河湾自体は大変痛んでいる。どう再生すればいいか、なんとか智恵を出してほしいということで、産学官の代表者で構成する委員会を設立し、三河湾環境再生プロジェクト行動計画を策定した。
●これまでは主に下水道整備により流入負荷量の削減を図ってきた。結果としてリンは激減、窒素も3割減となったが、CODと貧酸素面積は増えている。
●三河湾では当面、1200ヘクタールの干潟・浅場の保全・修復が必要であり、平成10年から16年に航路浚渫砂を利用して、国土交通省三河港湾事務所は600haの干潟・浅場を造成した。
●造成事業と六条干潟からの稚貝放流により、アサリの漁獲量も増えていった。水質は造成50年後、透明度3.5mから4mまで回復した。
●汚濁負荷総量の規制については、推進すべきとの意見や漁業への影響等を考慮して慎重に進めるべきなど賛否両論ある。
●干潟・浅場を造成するための砂がない。矢作川上流のダム堆砂など良い砂があるが、お金がない・部局が違う・ダンプで運ぶと炭酸ガスが出るなどの課題が出てくる。

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

◆話し合いでの主な意見

（● 意見　➢回答）

■ 今後の活動計画

- ● ごみ・流木調査は 10 月の 11 日が良い。（青木）
- ● 10 月の 12 日は都合が悪い。（井上）
- ● 鳥類調査は天候に左右されるか。（青木）
- ➢ 天候には左右されにくいが、調査時期は早い方が良い。また、休日は人が多く観にくいので、平日が良い。（高橋）
- ➢ 鳥類調査は９月５日(金)、ごみ・流木調査は 10 月 11 日(土)の実施を基本とする。（西原）

■ ごみ流木調査

- ● 山部会の人がくれば流木の種類がわかると思う。（青木）
- ➢ 西の浜での調査のときは来てもらった。樹皮がはがれてわからなかったが、専門家に来てもらいたい。調査の仕方とアナウンスは昨年同様としたい。（西原）
- ● 西の浜で調査を企画された方が、参加者はゴミを拾うことで満足しているがそれは違うと言われていた。ゴミ拾いを通じていろんなことを勉強してほしい、と言われていたのが印象的だった。（青木）

■ 次回の WG（子供の干潟体験イベント）

- ● 山の方の小学校は来るのか。（青木）
- ➢ ８月９日、10 日に来る予定。（西原）
- ● 山と海の子どもの違いもわかるとおもしろい。（青木）
- ● 流域連携を考えていくのなら何か残るものがあるとよい。（井上）
- ● 孫がいるがあまり海に行かない。（高橋）
- ● 海辺の子どもも堤防で隔絶されて海に行かない。昔と変わっている。
  海への理解のない人が増えている。干潟や海岸で生き物と触れ合う経験がどれだけあるか把握することは重要。（石田）
- ➢ 事務局でアンケートを修正し、確認いただく。（西原）

◆講義での質疑

■ 三河湾干潟造成について

- ● コスト以外に障害はあるか。（青木）
- ➢ 山と川を管理する事務所がどう連携していくか。調整していく必要がある。（田村）
- ● 造成に使われる砂はどこから持ってくるのか？（井上）
- ➢ 航路浚渫土砂の活用も考えられるが、三河湾では少ない。山の土砂を使うようなことまで検討しきれていない。（田村）
- ● 工事の発生土は？（青木）
- ➢ ブレンドして使えないかを検討している。（田村）
- ● 以前に航路浚渫土砂を使った時には生物に適さない砂もあったので配慮してほしい。（平岩）
- ● 航路浚渫土砂で埋め戻し覆砂をすると、下と上の砂が入れ替わるようなことはないか。（井上）
- ➢ 圧密しているのでそのようなことはない。（田村）
- ● 造成断面などの環境への配慮は？（石田）
- ➢ 底性生物が生息しやすい高さに設定している。流れへの影響も今後検討していく。勾配も緩めにしたり検討していく。（田村）
- ● アサリの生息環境等の改善効果はどう評価するのか。（西原）
- ➢ コスト比較はしているが、環境的な効果を定量的に評価するまではしていない。（田村）

■ 鈴木先生講義

- ● ダムの土砂を入れた干潟・浅場をつくるにはどうすればいいか？（青木）
- ➢ 場所の問題があり、地元の漁業者と話をする必要がある。費用対効果をベースに、国や県が政策的な判断で導入に積極的な価値を見出していかないと実現できない。（鈴木）
- ● 兵庫県の播磨灘では、約 20km 上流の千種川の川砂を使い、国の河川事業として海の浅場造成が行われた。（山田）
- ➢ 矢作川では運搬距離の克服が課題。矢作ダムから半径 40ｋｍまで搬出可能とダム管理者から聞いている。（鈴木）
- ● 環境再生の問題として捉えてくれれば事業が動き出すと考える。（青木）
- ● 山も川も巻き込んで、新しい矢作川方式ができると良い。（高橋）
- ● 費用対効果だけでなく、産業連関分析を実施する必要がある。懇談会として国土交通省に提言できれば価値がある。（井上）
- ➢ 便益の評価方法や国･県の連合体として早急に実施する必要があることも行動計画で提言している。各組織体が真剣に動く必要がある。（鈴木）
- ● 底泥からの影響もあるので、流入負荷対策はまったく効果がなかったわけではない。それだけでは限界があるという認識を持っている。（谷口）
- ➢ 流入負荷対策は、あくまで海域の貧酸素化には効果が確認できなかったということであり、水質改善には効果はみとめられる。（鈴木）
- ● これまでは窒素やリンで湖の水質を評価してきたが、今後は見直しが必要になってくると考える。（井上）
- ● 海部会として目に見える具体的アクションを起こしていきたい。（青木）

ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

よかったと思うこと： 資料の提供があった/本音の発言ができた/改めて、干潟、浅場の効果が勉強できてよかった/環境再生事業を単独で実施していくことの難しさを改めて認識した/干潟・浅場構造について詳しく説明していただいたこと/今年のスケジュールが見えたこと/色々な機関の取り組みが分かった

よくなかったと思うこと： テーマが大きく難しいこともあり、土砂問題に対する落としどころが見つけられないこと。

今年度取り組んでいきたい活動など： 流域視点での砂供給ができる方法を考えること/土砂問題を進めていきたい/他部門、他事業との連携/海への関心を高める活動/矢作川ダムの砂を実際に河口にもってきて実験してほしい/干潟・浅場構造について、今後の展開を知っていきたい/愛知県事業と流域圏との連携を進めていきたい

今後のスケジュール（予定）

次回 第 20 回海部会 WG を８月１１日（月）に開催します

東幡豆海岸・前島のトンボロ干潟で行われる自然観察会に参加し、子供たちの海への意識を把握し、振り返りを行います。